日光東町まちづくり推進委員会第2回ワーキンググループ　協議結果概要書

平成24年9月12日（水）　18時00分～20時15分　［　日光公民館　特別会議室　］

【出席委員】10名　【事務局】4名

1. 開　　会

2. あいさつ

日光東町まちづくり推進委員会　ワーキンググループ高梨弘志座長

3. 会　議

(1) 第1回会議結果及び宿題の報告

前回会議の協議内容の確認

・協議録の一部修正あり。

前回会議で宿題になっていた「日光市景観条例にかかる届出の流れ」について説明

「事業の計画段階での事前相談はない。ほぼ図面ができた段階で、建て主でなく業者が持ってくるパターンがほとんどである。その段階で助言や指導はするが、その段階での設計変更はなかなか難しい状況にある。そもそも業者は『規範』を知らないという現状がある」

【委員からの意見】

・景観条例届出の仕組み以前で解決できる部分があるかどうかも検討していく必要がある。窓口になっている行政と建主との接点がないというのが課題。

・業者が来るのに、業者が規範を知らないというが大きな課題であるので、それをどうやって解決していくか。

・県が最初に道路拡幅を説明するときに市も行って、「景観条例がある」という説明をしたが、頭に残っているのは、事業がどうなのか、補償がどうなのかということで、どういう建物がいいのかということは残ってはいないのではないか。別個に規範について草の根的に説明する機会が必要ではないか。

・「祭（いのり）のまち」の前に、補償という経済原則が優先されてしまうので、これをどこかでしっかですり込んでいくことが大事である。

・景観条例届出制度の流れだが、事前に説明することはとても大切である。説明会の質問状として事前に質問を羅列しておいて、これを届出の提出時に提出してもらうものを用意して、御幸町での説明会の時に渡しておくのはどうか。

・質問状の回答は、市に出してもらうのでなく、自分自身への回答でもいいのかもしれない。

・聞き方については、これからみなさんで検討していくということでどうだろうか。

・御幸町ではいっぺんに説明会で何から何までやるのでなく、何回かに分けて、段取りを組んで対象地域で説明会をやっていきたい。県が来るまでには何度か説明会をやっておいて、規範についての理解が深まっているようにしたい。

・一生懸命「規範に則ってやっていこう」というように引き込んでいくシステムを作っていかないと、ある程度決まった段階で届出を出せばいいやという形になってしまうのは良くない。これをいかに流れの中に組み込んでかというのを、みんなで知恵を出し合っていきたい。

・そろそろ設計をするという段階の前に、しっかりとした説明会をやって、「必ず設計屋さんと行政と打ち合わせをしてから設計をするように」話をするように持っていきたい。

・規範全部を渡す必要はない。意識付けができればいい。その中で、洋風がいいという人がいたとしても、それをダメとは言えない。拒否することはできないことが日光市の景観条例の難しいところである。

・まちづくりで大切なのは、両隣とか向こう三軒だと思う。結局、いくら一軒一軒の意識が高くなっても、決して悪いものではないが、できたまちの問題はそこに行ってしまう。

・建て替わるタイミングもある。隣と同じタイミングで建て替わるというわけではなく、半年とか1年とかの差でできていったりとかする。全部の建物が建て替わる訳ではなく、街並みとして両隣と話をしていけるかということである。倉澤實先生がずっとおっしゃっていたのは、「統一ではなく、調和」ということである。その中で、どこを合わせると、どうすると調和がとれるのかということを、言葉で出すのは簡単だが、一生懸命考えていかないといけない。隣近所の方と「少しぐらい合わせよう」との話ができるとだいぶ違う。

・住まいなので、その人その人の住まい方がある。その中で、調和ということで言えば、日本人の美意識として、玄関入ったときに靴の大きさ、色もいろいろあるけれども、靴がぴしっと並んでいる。街の中にそうした規律をどこに求めるか、そこに「美」があるということをみんなで認識していければ、いい街並みができるのではないか。

・まずは規範である。少しでも早く作り上げて、みなさんに示したい。

(2) 東町まちづくり規範の検討事項の抽出

・規範のテーマである「祭（いのり）のまち」はそのままでいいことを確認。

「まちづくりの作法」ごとに検討事項の確認。

Ａ－1「日光東町学」の確立を目指しましょう！

・観光客をお迎えするまちだけを考えているようだが、自分たちが住みやすい街というのはどうなのか。

・「日光東町学」ということで、資源等を活用していきましょうという作法で、精神的なものである。

・「日光東町学」を勉強すれば、観光客を説明できるし、自分のためにも勉強になるということで、観光客と自分のためということでいいのではないか。

Ａ－2伝統行事を大切にしましょう！

意見なし→そのまま

Ａ－3家体が見られる工夫をしましょう！

意見なし→そのまま

Ａ－4日光の豊かで美しい水を守りましょう！

意見なし→そのまま

Ａ－5日光東町を巡るツアーを企画しましょう！

・地図が古いので、図面の訂正をすること。

Ｂ－１　横町や路地を楽しめるようにしましょう！

意見なし→そのまま

Ｂ－２　街なかの空き地を活かして駐車スペースを確保しましょう！

・この作法が深化してできたのが、御幸町駐車場である。活用としてはこれからである。

・アクセス道路を作っていただきたいのと、名前を何とかしてほしい。観光客相手の駐車場なので、「御幸町駐車場」ではなく、「門前駐車場」とかそんな名前で。既に350名の署名を集めて市長に提出した。

・これから通り沿いが住宅になっていく中で、通り側が各住宅、お店の駐車場になっていくことも考えられる。そういうところの取り扱い、空間をどうするかということについて考えていかなくてはいけない。大通りがせっかく歩けるようになっても、そこを車が歩道を横断したり、駐車の空間をうまく考えていかないと崩れてしまう。

・家の前の駐車場についての話が出たが、基本的にここの作法では街なかを歩いてもらうため、お客さん相手の駐車場のことを言っているので、「家の前の駐車場をみんなで工夫しましょう」ということであれば、新たな項目として、街並みのほうで検討することでどうか。

・駐車場については、どこに駐車場があったほうがいいとか、交通計画との整合性が大切である。

・平成13、14年に作った「街づくり交通計画」の中の「街なか駐車場」というメニューで作ったのが、御幸町駐車場である。

・駐車場の問題は非常に大きい。今までできている街は、モータリゼーションが進んでいなかった40年前、50年前に駐車場をまったく考えずに建てられた家である。今度建てるとなると、みんなが目の前に駐車場を置きたくなるのだと思う。そうすると街のフェイスは行ったり来たりになってしまう。その辺を規範でどんなふうにしていくのか。みんなでうまく共用するとか、これから大きな街づくりの課題である。

Ｃ－１　商業力を高めましょう！

・水を言っているが、電気をつけて各店舗を明るくするというのも、電気代もこれから高くなるばかりなので、水力発電をみんなで勉強の中に入れて、5軒に1軒、10軒に1軒はそこから取ってもらうことはどうか。

・夜の明かりの写真になっているので、写真を差し替えてはどうか。

Ｃ－２　空家空店舗を活用しましょう！

・　空家と言っても2種類ある。「使える空家」と「壊してもらいたい空家」。「使える空家」は誰かに使ってほしいし、「壊してもらいたい空家」は駐車場になるといい。

・店舗は併用住宅になって、もともとの店舗は空いているけど住居部分には住んでいるというように、土間は空いているというパターンが多いかもしれない。

・空家バンクとか、街なかショップといった取り組みはいろいろなところでやっているが、日光ではあまりやっていない。それを仲介するような仕組みがあれば、もっと活発に動くのではないか。「貸すと面倒くさい」というイメージがあるから、なかなか進まないと思うので、間に団体が入ったり、行政が入ったりするとうまく動くのではないか。

・Ｃ－2を残して、Ｃ－3の項目を新たに作って、空店舗を駐車場にといったことを加筆するのはどうか。

・道路いっぱいに建っている空家も道路拡幅するときにはセットバックする必要があるわけだから、更地にして活用したい。

・実際にどういうふうに空いているのかというのも、実は感覚的に道を通るときに空いているかどうかを見ているだけなので、実際に歩きながら調査して、図面でどこが空いているか示したいとは思っている。
・「間もなく定年退職なので日光に住みたいが売地はないか」という立ち話になった。Iターン、Uターンとしても人口が増える意味合いからもいいことなので、どこかを知っていれば案内できるが、例えば、各自治会長のところに情報があるのであれば、そこに行ってもらうのもいい。
・情報は一括で管理しないとまずい。不動産屋が管理すると商売になってしまうので、NPOとか、公的なところが管理してもらえるのが一番ありがたい。
・行政がやると、利益を必要としないので、不動産屋とは競争ができない。
・「きれいにしたのはいいが、商店街が寂れた」という話があったが、建て替えた後でどれくらいの方が引き続き商売をするのかという問題がある。
・商売をしたい人のためにどこかでデータを持っている空き店舗バンクがあるといい。御幸町は借地が多い。
・所沢かどこかはでは商店街でやっていた。商店街で空き店舗を管理というか、街の中で足りない業種を空き店舗に入れている。やる人を見つけてきたら、街全体で「どうやったら儲かるか」ということまでバックアップする。家賃交渉も商店街でやっているということを聞いたことがある。街中でみんな知っているから成功しているのかもしれない。
・街に少しずつ新しい血が入ってくるということが、街が活性化につながるというのはある。

Ｄ－１　店先を美しくしましょう！

意見なし→そのまま

Ｄ－２　夜の灯りを演出しましょう！

タイトルは変えずに、写真の更新

Ｄ－３　休憩スペースを提供しましょう！

・空きスペースに写真を入れる。
・NPOでもやっていることがあるので、整理しておく。

Ｄ－４　分かりやすい案内をしましょう！

・よく東照宮までどのくらいか、駅までどのくらいかは聞かれる。
・文章とマップは更新してほしい。サインを出してタイアップしていることがわかるようにしてほしい。
・観光協会で作っている青地図を結構使っている。私も聞かれると渡している。
・これから街中を歩いてもらうのに、マップの力は大きい。あとどこに置くかが重要である。

Ｄ－５　バリアフリーを推進しましょう！

意見なし→そのまま

Ｅ－１　まちの性格の違いを活かしましょう！

・ここで「ゾーニング」という言葉を使っていいものか。イメージはできると思うが。

・前回、規範を作るときに非常に苦労した部分である。倉澤實先生がおっしゃっていたのは、「この街は金太郎飴ではない」と。鉢石という社寺に近いところと、駅に近いところの商売の差が必ず出なくてはいけない。それを何で表すのかと悩んだ結果がこれである。

・この地図がストレートになり過ぎている。下鉢石のところから実際には少し曲がっているので、この図も少し角度をつけてひねると、このイメージが伝わるのではないか。この道が下鉢石で折れていることがこの街にとってはすごく重要である。

・ここの図はテーマと連動していることなので、テーマは変わらなくても、この話し合いをしている中で、もしかすると否応なしに入ってくる言葉が出てくるかもしれない。

・実際に調査してみて、こういう商売をしている方がどれだけいるということを地図に落としてデータ化する作業をして、裏づけをとる必要はあるのかもしれない。

・視覚的に雰囲気を出すのであれば、色に例えて、「明るい」、「落ち着き」、「セピア」とあるが、地形を表すようなもの、勾配をイメージさせるものを表すと図表から訴えてくるイメージがまた違って見えてくるのではないか。

・この図はとても重要である。最初のコンセプトと一致しているものなので、きちんと表現したほうがいい。

Ｅ－２　町印やイメージカラーの活用を図りましょう！

・既にできた町印入りの街路灯の写真を入れたほうがいい。

・街路灯の色はあの色なのか。

・新しく設置するものについてはLEDになる。

・色は前のワーキングで倉澤實先生と一緒に表に作って実験までしてあの色になった。あの当時、それほど色があったわけではないが、いろいろやってあの色になった。

・Ｅ－１で、「セピア」とか「明るい」とか色があるが、街路灯の色も重要になる。LEDであればものすごく細かく色は変えられる。

Ｆ－１　現存する和風の建築を参考にしましょう！

・ここに8つ絵が出ているが、「こういうのがいい」というのがあると思うので、次回、日光の街の中でいいと思うものを出してはどうか。

・この8つの絵がいずれも違う。この8つの中から、連帯性というのは難しい部分があるが、ここで言っている「現存する和風の建築」と、前々から課題になっている連帯性を確保していく中で、どう結びつけていくかが難しい。

・どこまで一生懸命考え、どこまでコミュニケーションをとりながらやっていくかは、今の段階では街に委ねられている。これを見れば正解が見つかるというのではダメである。

・これから話し合いをしていく中で、「連帯性を確保した上で、古いものを大事にしましょう」ということになった時に、例えば次のページは、これを非常に意識した中で、新たなページを作って、「古いものを大切にしましょう」というのが連動していくことになるのか、これは話し合っていかないとわからないことではある。

・連動していかないとおかしいと思う。ここに8つの建物があって、これをひとつずつ並べたときに、街として見た時にどうなのかということを考えなくてはいけないのではないか。

・これを作った当時の記憶では、ビジュアルで出してしまうと、その家が「いい」「悪い」になってしまうので、それをもとにして、わざとぼかして絵にしたというのはある。

・話し合いをする中では写真を使って、最終的に載せ方については別途検討することでどうか。

・前の話で向こう三軒両隣意識して作りましょうという話があるが、この表現というのは、ひとつひとつの建物が独立した表現になっている。原っぱの中に建っているような表現になっているから、並んだときにどうなるかという検討もなされないわけである。その辺のところを考えてやっていくことも大切である。
・表現の仕方も検討が必要である。
・調和と連続性をどう保っていくか。
・平入りがいいという話もあるが、結局、場所の感覚、平入りだと雨が落ちてしまってどうしようもないというのもあって、妻入りになっているのが松原町あたりの造りである。
・日光はうなぎの寝床だから、妻入りですっとやってしまったほうが経費としては安くて簡単である。それが東京から住宅メーカーの営業がどんどん来て、「これでいいよ」ということになって、御幸町が崩されてしまってはしょうがないので、その辺のところは御幸町さんには頑張ってほしい。
・街並みというのは、線でつながっていると一番きれいに見える。
・統一ではないが、連続と調和の問題である。
・前回、昔の日光の街並みの写真があったが、あの形は日光の街の中で自然に生まれてきた形で、その時代日光でとれた素材で、その当時の一番いい技術で作り上げられたものである。どうしてこういう形ができたかということを継承していく必要があるのではないか。あの形は江戸時代からの宿場町としての形態である。
・御幸町としては、「営業を簡単に受けるな」ということをみんなに最初に言おうと思う。

(3) 第3回会議日程の設定

10月24日（水曜日）18時から20時、日光公民館特別会議室で決定。

4. 閉　会